

# 福島県道路公社 第6期中期経営計画実績評価

(令和4年度～令和6年度)

## I 推進の経過及び成果

### 1 経過

当公社では、外部有識者を含む委員で構成する「経営計画マネジメント委員会」を設置して、経営の改善に向けた方針を明確にし、計画的な取り組みを行うため、平成18年度から中期経営計画を策定するとともに、年度ごとに進行状況の検証・評価を行いながら、経営の改善や効率化に努めてきた。

- 第1期 (期間：平成18年度～平成20年度)
- 第2期 (期間：平成21年度～平成23年度)
- 第3期 (期間：平成25年度～平成27年度)
- 第4期 (期間：平成28年度～平成30年度)
- 第5期 (期間：令和元年度～令和3年度)
- 第6期 (期間：令和4年度～令和6年度)

第6期中期経営計画期間においては、令和2年1月からの「新型コロナウイルス感染症」による感染拡大が令和4年度も継続し、令和5年5月の5類への移行に伴い、行動制限がない状況となった。また、令和4年度後半からの国際情勢を反映した、ガソリン等の燃料価格の上昇や物価高の影響による家計の節約志向が強まるなど、利用者の回復には厳しい状況となった。一方、令和6年4月13日の「あぶくま高原道路」小野ICから先の県道吉間田滝根線の開通に伴い、本路線の利用による相双地域との連携や利便性がより一層向上することとなった。

このような状況の中、第6期中期経営計画の推進にあたっては、経営方針として「安全・安心・快適な道路環境等の確保」を基本方針のもと、福島県と連携し、通行の安全確保と有料道路や有料駐車場利用者が安心して快適に利用できる道路環境等を提供し、利用の促進と料金収入の増加につなげるとともに、組織の効率的な運営と経費の節減に努め、経営の効率化に取り組んだ。

### 2 成果

第6期中期経営計画期間中の有料道路事業では、あぶくま高原道路は自動車専用道路として、東北自動車道や磐越自動車道、常磐自動車道とを結び、時間短縮効果や利便性などが利用者に浸透してきていることや、令和5年度においての新型コロナウイルス感染症の感染拡大の収束、令和6年度における小野ICから先の県道吉間田滝根線の供用開始に伴う通行台数の増加を見込んだ計画として目標値を設定した。

しかし、通行台数は、令和4年度後半からのガソリン等の燃料価格の上昇、物価の高騰や、小野ICの上り線オンランプの工事による通行止めが継続するなどが影響し、厳しい状況となった。

この結果、令和4年度は「新型コロナウイルス感染症」の感染拡大に伴う行動制限やイベント等の開催中止の継続による通行台数の減少が見込まれたため、維持改良費や受託業務費、一般管理費の経費節減に取り組んだ。また、電気使用料金等の増加により道路管理費が増加したものの、冬期間の除雪、凍結抑制剤の散布作業等の減少に伴い、当期収支差は計画額に対し18,768千円増の19,207千円となった。

令和5年度及び令和6年度は、「新型コロナウイルス感染症」の5類への移行や小野ICから先の県道吉間田滝根線の供用開始に伴い、通行台数が増加となる計画としていたが、通行台数の伸びが少なく、道路料金収入実績は計画目標値に対して、40,000千円を上回る減収となった。このため、維持改良費の事業節減や駐車場管理費の節減に取り組んだものの、労務費単価の引上げや資材価格の上昇等による料金收受業務費や受電設備、收受器機の修繕費等が増加したことから、当期収支差は計画額に対し、令和5年度が16,318千円減の△23,668千円、令和6年度が44,096千円減の14,254千円となった。

また、年度末長期債務残高は最終事業年度の令和6年度末において、2,822,782千円となり、計画額に対し、38,084千円増の残高となった。

経営目標値の達成状況や事業の取組状況については、次のとおりである。

## II 経営目標値の達成状況

### 1 有料道路事業

福島空港道路の計画期間中の通行台数及び料金収入の実績は、令和4年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、不要不急の外出や移動の自粛、イベント等の開催の中止が継続したことなどにより計画目標の達成はできなかった。

また、令和5年度は5月に新型コロナウイルス感染症の5類移行により行動制限のない状況となったが、9月のいわき地方の豪雨災害や9月4日からの「あぶくま高原道路」小野ICから平田ICの工事に伴う全面通行止めが実施されたことなどの影響により通行台数、料金収入ともに計画目標を達成することができなかった。

令和6年度は、4月に小野ICから先の県道吉間田滝根線が開通し、前年度を上回る利用があったもの、ガソリン等の燃料価格の上昇による節約志向や、小野IC上り線オンランプの工事による通行止めが継続したことなどから、計画目標値に対し、通行台数は78.3%、料金収入は77.5%となり目標の達成はできなかった。

表1 福島空港道路の通行台数及び通行料金収入 (単位: 台、千円)

	実績				対 比 D/A (%)	計画目標値			達成率 D/G (%)
	R3年度 A	R4年度 B	R5年度 C	R6年度 D		R4年度 E	R5年度 F	R6年度 G	
1日当たり 通行台数	1,222	1,092	1,158	1,184	96.9	1,118	1,499	1,513	78.3
年間 通行台数	445,935	398,720	422,657	432,174	96.9	408,200	547,100	552,200	78.3
年間 料金収入	149,974	127,215	135,407	137,953	92.0	128,199	176,200	178,000	77.5

## III 主な施策及び具体的取組の評価

### I 有料道路事業

#### 福島空港道路

#### 1 有料道路の利用促進

##### (1) 地域と連携したPR活動の展開と新規利用者の開拓

利用者へ安全で安心な有料道路を提供するため、道路施設等の計画的な維持管理に努めるとともに、福島空港や北関東圏のイベント開催に合わせた利用促進や回数券利用の拡大のためのPR活動を実施した。

また、沿線市町村で構成する「あぶくま高原道路利活用促進協議会」と連携し、沿線地域の魅力、相双地域との利便性の向上を紹介するポスターの作成や、配付等を実施した。

これらのPR活動の効果もあり、有料通行車両の回数券による支払比率は、表2のとおり増加となった。

表 2 有料通行車両の支払別状況

年 度	有料通行台数 (台)			比 率 (%)	
	現 金	回数券	計	現 金	回数券
令和 4年度	332,597	66,123	398,720	83.4	16.6
令和 5年度	347,260	75,397	422,657	82.2	17.8
令和 6年度	354,152	78,022	432,174	81.9	18.1

① 沿線地域で開催される産業祭や北関東圏で開催されるイベント等でのPR活動の実施

令和4年度は、沿線地域や北関東圏で開催される産業祭やイベント行事が新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策により、すべて中止となったことから実施できなかった。

令和5年度は、沿線地域や北関東圏で開催されるイベント等については、開催の有無や規模等に関する十分な情報が得られにくい状況にあったことから参加を見送った。一方、9月に福島空港で開催の「ふくしま道の駅・空の駅まつり」に合わせ、「福島空港道路利用促進キャンペーン」活動を県と連携して開催し、福島空港道路利用による利便性や回数券利用の推進のPR活動を実施した。

令和6年度は、9月に福島空港で開催された「ふくしま道の駅・空の駅まつり」や「空の日フェスティバル」において県と連携し、利用促進のPR活動を実施した。

また、栃木県那須町で開催の「那須九尾まつり」にブースを出展し利用を呼びかけた。

② ホームページの更新等による利用効果や回数券利用のPR、沿線イベント情報等の発信

ホームページに有料道路の利用効果や回数券利用のPR、沿線地域の観光、イベント情報等を掲載した。また、料金收受員接客研修を行い、窓口における接客の向上に努めた。

③ 沿線地域の道の駅、空港、観光施設、企業等への訪問によるPR活動

小野ICから先の県道吉間田滝根線の開通に合わせ、県中・県南・南会津・相双・いわき地域の市町村会、企業、観光施設等への訪問による利用促進PR活動を実施した。特に、令和6年度は表3のとおり、沿線の立地企業やいわき市小名浜に立地する石油製品輸送業等の企業を重点的に訪問し、利用効果と利用の促進を働きかけた。

また、「あぶくま高原道路利活用促進協議会」と連携し、沿線地域の魅力、相双地域との利便性の向上を紹介するポスターを作成し、県内の主要な道の駅、観光施設、市町村をはじめ、栃木県、茨城県内の県北、県央地域の道の駅、市町村等への配付を実施した。

表3 訪問PR活動実施状況（延べ件数）

年度	道の駅	観光・ 学習施設	企業等 (宿泊施設)	市・町・村 町村会等	備 考
R4	2	—	5	—	
R5	2	6	1	—	
R6	10	1	20	7	

## 2 利用者の安全・安心の確保

### (1) 道路施設等の計画的な維持管理

#### ① 適時、適切な道路パトロールの実施

定期及び臨時の適時・適切な道路パトロールを実施し、利用者の安全な通行の確保に努めた。

#### ② 舗装補修の実施

舗装路面の損傷箇所について、令和4年度は9箇所 L=216.4mの舗装補修（欠損部補修）、令和5年度は1箇所 L=480.0mの舗装工事（切削、オーバーレイ）を実施し、舗装補修による通行の安全確保を図った。

#### ③ 道路施設の維持管理、道路清掃及び雪氷対策等の適切な実施

道路の維持管理（路面清掃、除草、側溝清掃、舗装の応急穴埋めや早期修繕、冬期間の雪氷対策等）を実施した。なお雪氷対策費については、近年の暖冬の影響により、雪氷対策のための出動回数が計画期間の各年度とも、除雪回数が3回、凍結抑制剤の散布作業が16～17回と減少した。

（参考：平成28年度 除雪回数4回、散布作業26回実施）

### (2) 災害時・緊急時の体制の確立

#### ① 緊急時における連絡体制、警報待機体制の確立

年度初めに公社内における緊急時の連絡体制及び警報待機体制を更新した。

また、令和6年度には東北地方で発生する大規模地震による津波災害発生時における緊急輸送道路の確保に向けた「東北道路啓開協議会」において、各道路管理者や警察などの関係機関との情報共有や連携の確保を図った。

#### ② 県道管理者との情報共有化の実施

福島県の関係建設事務所との調整会議及び県中、県南地方冬期道路円滑化会議等を行い国、県、市町村等の道路管理者との情報共有を図った。

### 3 適切な入札制度・契約制度の実施

#### (1) 入札方式等の継続実施

##### ① 維持管理業務委託の複数年契約の実施

維持管理業務委託については、令和3年度及び令和5年度において、それぞれ「一括契約・共同受注方式」及び「公募型プロポーザル方式」による入札を実施し、令和3・4年度、令和5・6年度の2カ年間の複数年契約を締結して、経費の節減と入札事務の軽減を図った。

## II 有料駐車場事業

### 1 既存駐車場の利用促進

各駐車場（県内4市6箇所）の定期的な除草・清掃作業を実施し、良好な駐車場環境の確保に努めた。

また、ホームページへの利用者募集や空き情報の提供、現地への募集看板の掲示等により利用の促進を図った。

この結果、表4のとおり令和4年度及び令和5年度の稼働及び料金収入は、あづま陸橋有料駐車場（福島市）が令和4年12月1日～令和5年3月31日までの間、道路管理者による橋りょう補修工事の実施に伴い利用休止となったため減少したが、工事の終了に伴い令和6年度の稼働率は93.7%となった。

表4 有料駐車場の利用台数、稼働率、料金収入額

区 分	利 用 実 績		
	令和4年度	令和5年度	令和6年度
駐 車 台 数 (台)	235	203	251
稼 働 率 (%)	87.7	75.9	93.7
料 金 収 入 (千円)	21,777	19,230	23,724

## III 道路管理受託事業

### 1 あぶくま高原道路管理受託事業

福島県との2カ年間（令和3年度～令和4年度、令和5年度～令和6年度）の複数年契約に基づき、有料道路と隣接する矢吹IC～矢吹中央IC間及び玉川IC～福島空港IC間の2区間について、「安全・安心・快適な道路環境の提供」を最重点事項として、有料道路区間と一体的な管理を実施した。

## IV 経営の効率化

以下のとおり、各事項とも計画を上回る経費節減に務めた。

### 1 組織の効率的運営

嘱託職員を再雇用により継続採用し、人材の活用と効率的な運営を図った。

### 2 管理経費の縮減

各年度において「エコオフィス自己評価」を継続して実施し、省資源の意識向上を図り、事務用品、印刷物等の事務経費の節減に努めた。

また、ノー残業デー、リフレッシュデーの周知徹底により「ワーク・ライフ・バランス」の向上とともに超過勤務手当の抑制を図った。

### 3 法令の遵守

令和5年度において「福島県個人情報の保護に関する法律施行条例」の制定により、公社は事業者としての個人情報保護法の適用となるため、事務事業に係る個人情報の適正な取扱いを行うため、新たに「福島県道路公社個人情報保護規定」及び「同運用要綱」を定めた。

また、各種法令遵守の徹底を図るため、「コンプライアンス自己評価」を継続実施し、個人情報の流出やホームページ等の情報セキュリティの確保について職員への指導、徹底を図った。

### 4 その他

道路整備特別措置法の改正に伴い、料金徴収の対象を車両の運転者又は使用者から徴収することが明確化されたことから、通行料金の確実な徴収を図るため、令和5年度において料金所ブース内に設置のI T Vカメラの更新を行った。

また、料金所ブース内の料金処理機については、導入から24年が経過し、老朽化や部品の確保が困難な状況となっていることから、令和6年度において長野県道路公社から後継機種が無償譲渡を受け、更新をすることとした。

## V 事業収支結果

第6期中期経営計画期間（令和4年度～令和6年度）の事業収支計画に対する収支実績は表5のとおり。

なお、各事業年度における収支実績の概要は、次のとおりである。

令和4年度は、「新型コロナウイルス感染症」の感染拡大が継続したことにより、「福島空港道路」の通行台数の伸びが少なかったことや「あづま陸橋有料駐車場」の橋りょう補修工事に伴う利用休止による料金収入の減及び受託業務収入の当初計画からの事業数量の減少により9,512千円の減となったため、当期収入は計画に対し11,234千円減の337,376千円となった。

当期費用は道路改良費、受託業務費とも、収入の減少による節減に取り組むとともに冬期間の除雪、凍結抑制剤の散布作業回数の減少が伴ったことから計画より30,002千円減の318,169千円となった。

この結果、令和4年度の収支差は計画より18,768千円増の19,207千円となり、県への収支差借入金439千円を計画どおり償還するとともに、前期繰越金32,301千円と合わせ、51,069千円を次期繰越金とした。

令和5年度は、「新型コロナウイルス感染症」の5類への移行に伴う行動制限の解除により通行台数の伸びが見込まれたが、あぶくま高原道路の平田IC～小野IC間の通行止めが実施されたことや、ガソリン等の燃料価格の上昇などの影響もあり、道路料金収入は減少となった。

また、「あづま陸橋有料駐車場」の橋りょう補修工事に伴う利用休止が前年度に引き続き実施されたため、料金収入が減少したことから、当期収入は計画に対し、41,819千円減の354,792千円となった。

当期費用は、料金収入の減少が見込まれたことから、舗装補修工事の事業量縮減や駐車場管理費の節減に取り組んだが、労務費単価の引上げや資材価格の上昇等による料金收受業務費や受電設備、料金收受器機の修繕費等が増加したために、当期費用は計画に対し、25,501千円減の378,460千円となった。

この結果、令和5年度の収支差は計画より16,318千円減の△23,668千円となり、県への収支差借入金の償還を21,058千円から4,274千円に減額し、次期繰越金を23,111千円とした。

令和6年度は、「あぶくま高原道路」の小野ICから先の県道吉間田滝根線の供用開始に伴う通行台数の増加を見込んだ計画であったが、小野IC上り線オンランプの通行止めやガソリン等の燃料価格の上昇、物価高による節約志向の強まりが影響し、道路料金収入が計画を40,047千円下回ったため、当期収入は計画より、39,175千円減の359,236千円となった。

当期費用は、維持改良費や駐車場管理経費の節減に努めたものの、労務単価や電気使用料金の引き上げに伴い、道路管理費は増額となったことから、計画より4,921千円増の344,982千円となった。

この結果、令和6年度の収支差は計画より44,096千円減の14,254千円となり、県への収支差借入金の償還を計画より21,300千円減の12,000千円とし、次期繰越金を25,355千円とした。

これらにより、第6期中期経営計画期間の最終事業年度末における令和6年度末の長期債務残高は、表6のとおり計画に対し38,084千円増の2,822,782千円となった。

表5 事業収支計画・実績対比表

(単位:千円)

年度 科目		実績			計画			差額(実績-計画)		
		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
		a	b	c	d	e	f	g=(a-d)	h=(b-e)	i=(c-f)
当期収入A	道路料金収入	127,215	135,407	137,953	128,199	176,200	178,000	△ 984	△ 40,793	△ 40,047
	福島空港道路	127,215	135,407	137,953	128,199	176,200	178,000	△ 984	△ 40,793	△ 40,047
	駐車場料金収入	21,777	19,230	23,724	23,002	23,002	23,002	△ 1,225	△ 3,772	722
	業務雑収入	124	92	130	65	0	0	59	92	130
	受託業務収入	157,832	169,913	167,142	167,344	167,344	167,344	△ 9,512	2,569	△ 202
	業務外収入	30,428	30,150	30,287	30,000	30,065	30,065	428	85	222
	収入計	<b>337,376</b>	<b>354,792</b>	<b>359,236</b>	<b>348,610</b>	<b>396,611</b>	<b>398,411</b>	<b>△ 11,234</b>	<b>△ 41,819</b>	<b>△ 39,175</b>
当期費用B	維持改良費	41,670	89,838	48,893	56,304	112,094	48,194	△ 14,634	△ 22,256	699
	福島空港道路	41,670	89,838	48,893	56,304	112,094	48,194	△ 14,634	△ 22,256	699
	道路管理費	51,199	56,364	58,118	49,135	49,135	49,135	2,064	7,229	8,983
	福島空港道路	51,199	56,364	58,118	49,135	49,135	49,135	2,064	7,229	8,983
	駐車場管理費	7,191	6,940	7,237	9,260	9,260	9,260	△ 2,069	△ 2,320	△ 2,023
	一般管理費	30,277	25,405	33,592	36,080	36,080	36,080	△ 5,803	△ 10,675	△ 2,488
	業務外費用(利息等)	30,000	30,000	30,000	30,048	30,048	30,048	△ 48	△ 48	△ 48
	受託業務費	157,832	169,913	167,142	167,344	167,344	167,344	△ 9,512	2,569	△ 202
	支出計	<b>318,169</b>	<b>378,460</b>	<b>344,982</b>	<b>348,171</b>	<b>403,961</b>	<b>340,061</b>	<b>△ 30,002</b>	<b>△ 25,501</b>	<b>4,921</b>
収支差(C=A-B)		<b>19,207</b>	<b>△ 23,668</b>	<b>14,254</b>	<b>439</b>	<b>△ 7,350</b>	<b>58,350</b>	<b>18,768</b>	<b>△ 16,318</b>	<b>△ 44,096</b>
県償還金(建設資金)D		439	4,274	12,000	439	21,058	33,300	0	△ 16,784	△ 21,300
前期繰越金E		32,301	51,053	23,101	28,408	28,408	0	3,893	22,645	23,101
次期繰越金(C-D+E)		51,069	23,111	25,355	28,408	0	25,050	22,661	23,111	305
次期繰越金内訳	福島空港道路	51,053	23,101	25,355						
	有料駐車場	16	10	0						

表6 年度末長期債務残高内訳表

(単位:千円)

年度 科目		実績			計画			差額(実績-計画)		
		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
		a	b	c	d	e	f	g=(a-d)	h=(b-e)	i=(c-f)
長期債務額(出資金含む)		2,839,056	2,834,782	2,822,782	2,839,056	2,817,998	2,784,698	0	16,784	38,084
内訳	建設資金	政府等借入金	0	0	0	0	0	0	0	0
		福島県出資金	790,000	790,000	790,000	790,000	790,000	790,000	0	0
	収支差借入金	2,049,056	2,044,782	2,032,782	2,049,056	2,027,998	1,994,698	0	16,784	38,084